

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	20-文研-2
-----------------	---------

平成20年度配分 研究成果の概要

研究名	欧州の産業遺産を活用した文化政策のマネジメント事例研究 ～イギリスの運河施設管理とイタリア北部の工業都市～				
配分を受けた 特別研究費	文化政策研究科長 特別研究費 2,482 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名 (研究科名)	学科名	職	氏名	共同研究の 場合の分担
	文化政策学部 文化政策研究科		教授	根本 敏行	・全体総括 ・地域の文化政策 ・地域資源マネジメント
共同 研究者	文化政策学部 文化政策研究科		教授	藤田 憲一	・EU、各国の関連法 規等 ・地域資源の活用状 況
	文化政策学部 文化政策研究科		教授	種田 明	・産業遺産、産業考 古学 ・ツーリズムと地域振 興
発表の方法 (予定で可)	1 紀要		号数	第 10 号 (H22 年 3月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:文化政策学会		発表日 (発表 予定日)	平成 21 年 12 月 日	
	3 その他 発表の方法:浜松市都心未来創造会議		発表日 (発表 予定日)	平成 21 年 11 月 日	

(研究の目的等)

わが国の今後の地域における文化政策、産業政策の先駆的事例である欧州の取り組みについて、とりわけ地域資源を生かしたマネジメントの面に着目したケース・スタディを行う。マネジメントについては、人の面では専門家の関与と産学官のパートナーシップ、物の面では産業遺産を始めとする新しいタイプの文化資源、資金の面では拡大EUにおける地域政策などをターゲットとする。

(研究の実施方法等)

(1) 運河施設

ここ数年で、新たな文化政策のもとで、とりわけ民間のNPOが中心となったパートナーシップのもとで再生されているスコットランド、イングランドの運河施設等の土木的地域遺産の活用事例を調査する。

調査は、国内外の文献調査、現地のNPOスタッフへのインタビュー、実際の施設・設備の運用調査などによる。

(2) 産業遺産・博物館

イギリス(イングランド、スコットランド)、イタリア北部における近年の新しい工業系産業遺産博物館と工業都市・港湾都市の新しい博物館の動向を調査する。

シルク関連の博物館ネットワークとしてイングランドとイタリア北部の事例、工業都市の事例としてスコットランドとリバプール周辺の戦争や奴隷制度にかかる新しい博物館の動向を、現地の取材と関連文献によって調査する。

(得られた成果等)

(1) 運河施設

イングランドとスコットランドの新しい運河施設について、古い産業遺産の修復・再活用、並びに最新の技術による新たな整備の経緯や社会経済的意義、NPOと行政、産業界とのパートナーシップによる取り組みの状況を明らかにした。

(2) 産業遺産・博物館

EU域内で、複数の国にまたがる共通テーマの博物館連合として典型的なシルク博物館の例を取り上げ、新しい動向としてその背景や整備の経緯についての知見が得られた。

比較的ネガティブなイメージの戦争や奴隷制度について、いわば加害者である先進国の側から積極的にテーマを設定して、斬新なコンセプトの博物館として世に訴えている事例をとりあげ、その具体的な状況について国内で率先して紹介するものである。

紀要10号においては、これら事例研究に基づき、EUの新しい文化政策とマネジメントの手法として紹介するとともに、わが国における応用の可能性について考察する予定である。